



佐藤精機株式会社

代表取締役社長 佐藤 慎介 氏

高精度加工のオールラウンダー
として、これからも社会のニーズ
に答え、ワンランク上のモノづく
りを行っていきます！

PROFILE

1958年姫路市出身。同志社大学卒業後、大手寝具メーカー勤務、1983年佐藤精機株式会社に入社。2013年代表取締役社長に就任し、現在に至る。趣味は美術品鑑賞。関西学院大学のMBA(経営管理修士)に学び、今後の地方の中小企業での経営の在り方について研究している。



たつのテクニカルセンター外観

—「ひょうごオンリーワン企業」に認定された感想をお聞かせください。

昨年度のひょうごものづくりNo.1大賞の表彰に引き続き、今回のオンリーワン企業認定は、当社にとって更なる喜びになりました。特定の分野で、際立った技術や知見・実績という評価の証として心より感謝しております。

今回の認定を受けて、今の社員もそうですが、今後弊社に入ってきてくれる人たちについても、是非誇りをもっていただきたいと思っています。

—御社の事業について、教えてください。

航空や自動車、宇宙関連など様々な分野において、最先端の切削技術を中心として、主に試作や開発品、特注品の製作を主とする多品種少量生産に軸足を置いています。

今では、航空・宇宙や鉄道、カーレーシング、半導体、油圧、エスカレーター等、昇降機等、10を超えるドメインのお客様と取引させていただいており、お客様の分野も多岐に亘るため、その分求められる要求も異なり苦労は絶えません。持ち前の技術力と旺盛な好奇心と挑戦心でモノづくりに励んでいます。

—特定の製品を持たないとのことですが、「ひょうごオンリーワン企業」に選ばれた理由はどこにあるのでしょうか。

弊社は、従業員数も売上も設備も、どの部分を見ても他の認定企業よりもかなり小さいと思います。では、なぜ弊社が「ひょうごオンリーワン企業」に認定されたのか。私はそれ

は弊社のモノづくりに対する姿勢にあると思っています。

弊社は多品種少量生産という生産形態をとっています。同じように多品種少量生産という形態をとっている企業はいくつもあると思いますが、我々のように扱う材料、形状にとらわれず、広くチャレンジし続けている会社はかなり珍しいと思います。その挑戦していく姿勢こそがオンリーワンであり、今回認定いただいた理由だと思っています。

—創業時からそのようなチャレンジ精神を大切にされてきたのでしょうか。

創業当時は今とは全く逆でした。当時は、姫路に一大拠点を構えていた東芝の姫路工場でブラウン管テレビ製造にて使用される金型の製作を中心に事業を行ってきました。

そのような事業を30年近く行ってきたのですが、1つの会社との取引だけというのは、リスクを含んでいるということ。また、どうしても技術の幅が固定されてしまうことから「このままではいけない」というふうに思うようになりました。今までのやり方をすぐに変えることは難しかったですが、そこから10年近くかけて、徐々に1社依存から変革していきました。



—日産のレーシングカーの部品から、JAXAの宇宙関連部品まで、特殊なものも多く手掛けています。

日産の場合も、JAXAの場合も、普段待っているだけではなかなか関わること、取引をすることは難しいと思います。そこでやはり大切なことは、自ら能動的にきっかけを作りに行くこと、またお客様からの期待に応え続けて信頼されることだと思います。

弊社の会社名にもなっている「精機」という言葉、この言葉の本来の意味は、ただモノを精密に作るだけではなく、ワンランク上の高度な機能美を揃えたモノを作るという意味が含まれていると私は考えています。

その他にも、実際のビジネスには直結しないものもありますが、様々な試作品やユニークなものの製作も行っています。モノづくりを行う上で、「おもしろい」という観点は非常に重要なものだと考えていますので、様々なご依頼にも対応しています。



—モノづくりを行う上で苦勞されていること、大切にされていることを教えてください。

多品種少量生産という形態をとっているため、当然モノづくりの苦勞は毎回あります。特に現場の社員は毎回ヒヤヒヤしながら作業を行っています。

様々な依頼をいただきますが、弊社の設備では扱えない程の大きなものや、超微細なものはお断りせざるを得ないですが、それ以外のものについては基本的に今までに扱ったことのない材料でもお断りせずにチャレンジしていきます。

我々は、これまで兵庫県になかったような加工や生産を行う会社になり、それをブランディング化していくことで、兵庫県のモノづくりの知名度・地位を向上させていきたいと考えています。



—特殊な事業を支えるエンジニア集団を作るために取り組まれていることを教えてください。

当然最初から高度なことができる人たちがばかりが入ってくるわけではなく、入ってから鍛え上げていくことに重きを置いており、社内教育や社員の資格の取得にはかなり力を入れています。

特に資格の取得については、1つの分野だけではなく様々な分野の資格を取ることを推奨しています。資格自体が万能とは思っていませんが、資格を取ることで各個人の技術や価値を見える化することに意味があると思っています。弊社の場合はエンジニアと言えど、営業的な知識を持っているなど、1つの分野だけではなく、いくつも強みを

持つことが大切だと考えています。会社としてもそのサポートのために資格の受験費用の支給や、取得した資格に応じて給与水準を上げるなどの取り組みを行っています。

各個人の集合が会社であり、会社としてもおかげさまで、今回の「ひょうごオンリーワン企業」もそうですが、その他にも「ひょうごモノづくりナンバーワン大賞」、「はばたく中小企業 300 社」や「地域未来牽引企業」にも選んでいただきました。同じように選ばれている他の企業を見ても、弊社は売上も従業員数もかなり規模が小さいと思います。では、なぜそのような小さな会社を選ばれているのか、そこに私が大切にしている価値があり、それもある意味での会社としての価値の見える化だと思っています。

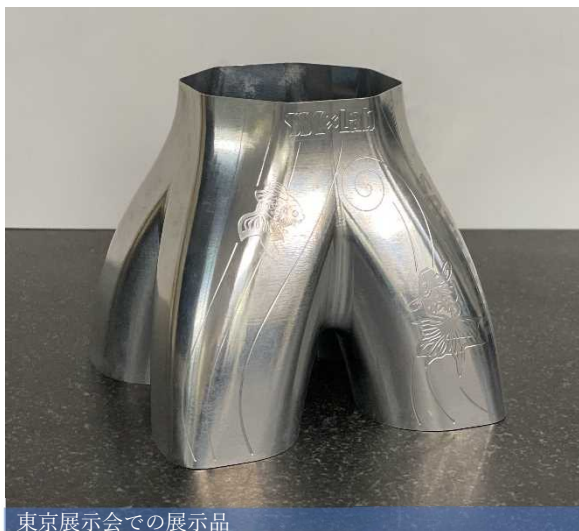
—「オンリーワン企業」をめざす企業へのメッセージをお願いします。

どのような会社にも、他社にはない強みというものがあると思います。それを会社一体となって推し進めていくことで、いろいろな形のオンリーワンを現出させることができると考えています。

兵庫県は工業では国内でも有数の立地県ですが、実際に行なわれている事業は重工関係に偏っていると思います。また、それらの事業も今後海外展開へシフトしていく中で、モノづくりの分野で見た時には、この先非常に怖い状況だと感じています。私は兵庫県内で手掛けていないような製品を、弊社のような小さな会社が手掛けることで、「佐藤精機のような小さな会社でもできるなら自分たちも」と思っていただいて、皆さんと一緒に兵庫県のモノづくりの地位を上げていきたいと考えています。

TECHNOLOGY

高度な技術力を持つエンジニア集団による「多品種超微量生産」



東京展示会での展示品



SUPER GT の心臓部品

我々は社名にある“精機”というものは、どのようなものであるかということを常に意識して、モノづくりに取り組んでいます。

代表的な製品としては、日産自動車がSUPER GTに投入されているレーシングカーの心臓部品やJAXAの「はやぶさ

プロジェクト」に使用される地球外試料を輸送する超真空容器といったものがあり、兵庫県には存在しないものづくりを意識し、それを当社で実現することをビジョンとして掲げてモノづくりに取り組んでいます。

開発に至った経緯

日産との取引が始まったきっかけは、東京で行われた展示会に製作の難しい展示品を出展したことでした。その展示品が業界紙に掲載されたことを日産のレーシングチームの監督が目にし、声をかけていただきました。

JAXA の場合は、播磨に世界でも最先端の大型放射光施設 (SPring-8) があるのですが、そこで働く人とたまたま接点を持つことができ、仕事でコツコツと要望に応じていく中で、JAXA の方を紹介してもらったことがきっかけでした。

独自性

量産品ではなく、多品種超微量生産に特化した体制を取っており、県内で他社が手掛けていないものに挑戦していています。

また、社内教育・資格取得にも非常に力を入れており、高度な技術を持ったエンジニア集団を形成し、多種多様な加工を実現することにより、取り引きするために高いハードルがある、つまり参入障壁が高いといわれる組織との取り引きも積極的に行っています。

今後の展望

直近では、次世代型高速鉄道の主要部品の加工に、特に力を入れています。また、海外についても先端を走るヨーロッパや、アメリカの大手企業などとの取り引きの機会があれば、是非チャレンジしてみたいと思っています。

今後も幅広い分野から声を掛けていただけるような企業を目指していきたいと思っています。

TOPICS

JAXA「はやぶさプロジェクト」にも携わっています

JAXAの「はやぶさプロジェクト」で使用する地球外試料を輸送するための超真空容器について、弊社にて製造しています。



沿革

- | | | | |
|-------|---|-------|--|
| 1955年 | 姫路市余部区下余部 240-6 において佐藤貞義が佐藤鉄工所として営業を開始する。 | 2014年 | JISQ 9100 認証取得に向け、キックオフ。たつの市揖西町に工場用地を取得。 |
| 1972年 | 佐藤鉄工所より佐藤精機株式会社へ移行する。 | 2015年 | たつのテクニカルセンター建築に伴う地鎮祭を行う。たつのテクニカルセンター竣工。 |
| 1996年 | 姫路市余部区下余部字西川原 313-3 に第2製造を新設し、板金・溶接及び組立部門を移設。 | 2015年 | 中小機構より新価値創造賞(技術部門)受賞 |
| 2003年 | ISO9001:2000 の認証を取得する。 | 2016年 | JISQ 9100 認証取得。(認証機関 BSK) |
| 2006年 | 本社工場 製造棟改修工事第1期完了。 | 2016年 | 兵庫県より「オンリーワンを目指す企業-Next only one-」に認定される。 |
| 2007年 | 余部区下余部字西川原 294-3 の土地を取得し駐車場を新設 | 2017年 | JAXA より、はやぶさ2プロジェクトの使用部品としてFFTC使用輸送コンテナが採用される。 |
| 2008年 | ISO14001 の認証を取得する。ISO9001:2008 年度版への切替を行う。 | 2019年 | 経済産業省より「はばたく中小企業・小規模事業者 300社」に選定される。 |
| 2011年 | 本社前 駐車ヤード新設。本社工場 製造棟改修工事第2期完了。 | 2019年 | 経済産業省より地域未来牽引企業に選定される。 |
| 2013年 | OHASAS 18001 の認証を取得(認証機関 JET) | 2019年 | 兵庫県より「ひょうごNo.1ものづくり大賞」受賞 |
| 2013年 | 代表取締役社長に佐藤慎介が就任 | 2020年 | ひょうごオンリーワン企業認定 |
| 2013年 | 兵庫県、ひょうご仕事と生活センター、仕事と生活のバランス(WLB)優秀企業として表彰を受ける。 | | |

会社概要

所在地	〒671-1261 兵庫県姫路市 余部区下余部 240-6	従業員数	46名
電話	079-274-1047	資本金	1,800万円
FAX	079-273-6964	設立	1972年5月
URL	http://ssc-e.co.jp/	代表取締役社長	佐藤 慎介

事業概要

産業機器全般及び、部品の製作・組立
各種、工作機械による切削加工